

同年六月に入り、京都、大阪、神戸、名古屋等に於て數次懇談會を開催し、以て支部設立の根基が出来、當時宣傳的態度は本會の避けた所であつたが、偶々大阪神戸京都徳島松山を始めとして各地新聞の大々的記事に依り、本會は天下に喧傳せらるるに至つたのである。

次で東海、四國、九州の各地に於て會員の糾合に努め、又東京に於ては、會員の懇談會第一回を十月十四日東京會館に、第二回を十一月二十九日東京偕行社に、第三回を八年一月十九日中央亭に於て開催したが、回を重ねるに従ひ著しく出席者の増加を見たのは、以て本會實力の漸進を立證するに足るのである。

一月二十四日田中大將一行は、京都市公會堂に於て本會最初の演說會を開き、公衆に對し本會主義主張の第一聲を擧げ會況は稀なる盛大と靜肅さを示し、本會前途の成功をトせしめた。

二月下旬に於ける國際聯盟總會の結果と國內の情勢に鑑み國民の奮起を促し政府を鞭撻する必要を認め、且本會の主義主張を地方に普及せんが爲め、三月十一日より二十七日に亘つて、二十七名の特派辯士を六班に分ち、全國四十五都市に於て大演說會を開催したが、到る處稀有の盛況を呈し、演說會に直接盡力せる同志五百三十二名、聽衆概數十萬八千を算し演說會の前後に實施せる懇談會も亦好成績を擧げた。此等の結果として、支部の編成準備各地に起り、入會共鳴者激増し應接に苦む盛況とまでなつた。

右の外本會の宣傳事業として、左記パンフレット及雜誌を頒布して、本會の意思を發表し、且會員の結束の資とした。

七年 五月 「齋藤内閣に對する批判」

同年 九月 「重大事局に處して」

同年 十月 「リットン報告書に接して」及「明倫彙報第一號」

同年十二月 「明倫彙報第二號」

八年 一月 「年頭に際して國民に檄す」並に京都及神戸支部發行の「市民諸君に告ぐ」

同年 三月 新聞紙法に據る定期刊行雜誌「明倫」第一號爾後毎月一日發行

同年 同月 「全國遊説に際して」及「明倫會」

本會の直接的政治運動としては、本年二月一日國際聯盟脱退の決議をして首相、外、陸、海の四相及内大臣に勸告し、又四月十一日既成政黨内閣出現反對の決議をなして西園寺公齋藤首相及牧野内府に交付した。

本部に於ては創立著手以來、毎週一回の定例会及必要に應じて臨時會を開き會務を協定處理し。且外交國防、教育思想、財政經濟、及一般政治の四部門より成る政務調査會を設け、調査研究を續行して發會式に至つたのである。

發會式概況